

## 2023年度第1回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画策定及び推進委員会	
事務局 (担当課)	保健所 保健予防課	
開催日時	2023年8月4(金) 13:30~15:30	
開催場所	オンライン 及び 会場開催 (町田市庁舎 8-1会議室)	
議題	1 開 会 2 委員長挨拶 3 委員自己紹介 4 報 告 (1) 町田市保健所運営協議会の報告について (2) 第1次・第2次町田市食育推進計画報告書の作成について 5 議 事 (1) 「(仮称)まちだ健康づくり推進プラン24-31」の策定について (2) 2022年度の食育の取組報告および2023年度以降の取組について 6 事務連絡 7 閉 会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	調所 勝弘 (学識経験者) 戸羽 一 (東京都町田市歯科医師会) 千葉 勢子 (町田市法人立保育園協会) 岩崎 直美 (町田市公立小学校校長会) 米澤 加代 (市内大学教員) 松井 大輔 (町田商工会議所) 竜崎 常明 (東京都町田食品衛生協会) 栗原 慶史 (町田集団給食研究会) 村上 律子 (町田地域活動栄養士会) 亀田 文生 (町田市観光コンベンション協会) 大野 薫里 (町田市公立小学校 PTA 連絡協議会) 竹下 幸子 (町田市立中学校 PTA 連合会)
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	五十子 桂祐 (町田市医師会) 大崎 志保 (町田市私立幼稚園協会) 矢島 加都美 (町田市公立中学校校長会) 進藤 悠 (市内小学校栄養教諭) 浦嶋 澄香 (市内高等学校教諭) 新倉 敏和 (町田市農業協同組合) 佐藤 孝一 (市内農業者)

<p>配付資料</p>	<p>資料1-1 現行計画の最終評価について（概要）  資料1-2 現行計画の最終評価について（個別）  資料2-1 「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」の  施策・指標・取組（案）について  資料2-2 「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」の体系  及び指標（案）  資料2-3 「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」素案  資料3 第1次・第2次町田市食育推進計画報告書 目次案  資料4-1 第2次町田市食育推進計画進捗管理シートの見方  資料4-2 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート  2022年度まとめ  資料4-3 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート 各視点の評価  資料4-4 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート 各取組の評価  「ガチ1分クッキング」  「大地のごちそう」  町田市食育推進計画策定及び推進委員会委員名簿  第2次町田市食育推進計画</p>
-------------	---

## 検 討 経 過

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 委員自己紹介

## 4 報 告

### (1) 町田市保健所運営協議会の報告について

#### 事務局：

先日、第1回町田市保健所運営協議会を開催した。その会議内容について、報告する。保健所では、「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」の策定に向けて準備を行っている。本計画は、保健医療計画・自殺対策計画・食育推進計画の3計画を統合して策定する。計画の推進においては、分野横断的な取り組みを行っていく予定。協議会において、現行保健医療計画の評価、2022年実績及び2023年度の事業計画についての報告を行い、意見をいただいた。

資料1-1、1-2は現行計画の評価をまとめたもの。現行計画において、目標指標を設けているが、その達成状況をA～Dに区分して評価した。新型コロナウイルス感染症の影響で評価できなかったものについては「-」とした。資料1-1の円グラフにて、評価区分の割合を示している。

評価不能「-」となった目標の一つに、「食塩摂取量減少の普及啓発」として、特定給食施設巡回指導がある。年間60回を目標としていたが、感染症の影響で施設へ伺うことが難しくなった。その代わりに、電話指導を行った。

資料1-2に目標指標の達成状況について、詳細をまとめた。「1日の野菜摂取量の増加」については、初期値246gから233gに低下した。そのため、D評価。「ふだんの食事で主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる人の増加」については、初期値46.1%から47.5%に増加した。少し改善が見られたため、B評価とした。どちらについても目標達成とはならなかったため、引き続き市民のもとに届く情報発信に努める。

資料2-1から資料2-3には、次期保健医療計画の案をまとめた。次期計画は、2つの基本目標と、7つの目標を「目指す姿」として捉えた。達成状況を評価する目標指標は、46件に整理した。

食育は目標1-3に位置付けた。そこからさらに施策を3つに分け、目標指標を5つ設けて、計画を推進していく。設定した値は、資料2-2のとおり。

次期保健医療計画の推進は、市だけでなく関係機関や市民の皆様と一体となって、分野にとらわれず取り組む必要がある。

#### 委員長：

町田市食育推進計画策定及び推進委員会の代表者として、本協議会に出席した。食育に関する意見・質問も多数出た。「同じ野菜でも栄養価が異なる」や「野菜ジュースで野菜をとったと考えてよいのか」等が挙がった。やはり、食育・食事は多くの方に身近で、大切なのだと感じた。

## (2) 第1次・第2次町田市食育推進計画報告書の作成について

### 事務局：

現在、市は第2次町田市食育推進計画に基づいた食育推進を図っており、今年度が最終年度となる。第1次・第2次町田市食育推進計画の進捗状況を報告するため、報告書を作成する。今年度中に作成し、その後は町田市ホームページ等で公開する予定。

その目次（案）が資料3。「2 評価指標の達成状況」においては、第2次計画で設定している14項目の評価指標の達成状況をまとめる。

「3 視点別の取組実績（活動報告）」においては、町田市内で行われた食育を視点毎に紹介する。キラリ☆まちだ祭等のイベントから、保育園で普段から行われている調理体験等の身近なものまで幅広く掲載したい。委員の皆様には、情報や写真提供をお願いしたい。

報告書の後半には、「資料」として町田市の食育に関わる統計データを掲載する。

「町田市民の保健医療意識調査」結果等、報告書に掲載すべきデータがあれば、ご助言願いたい。

### 委員長：

報告事項について、ご質問等はあるか。

### 委員：

特になし

## 5 議 事

### (1) 「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」の策定について

#### 委員長：

まずは、事務局から説明を願いたい。

#### 事務局：

資料2-3をご覧ください。23ページから27ページが食育に関わる内容。

目標1-3に「食で健康を支えるまち」として計画に位置付けて、食育を推進する。食を通じて地域とつながるための支援を充実させ、食に関する環境を整えることで、市民一人ひとりが望ましい栄養・食生活を実践できることを目指す。

施策は3つに分けた。施策の推進にあたっては、委員を始め、関係団体と連携して取り組みたい。計画には「連携団体」として、団体名を記載している。委員の皆様には記載の取組において、連携が可能か、後ほど意見を伺いたい。

1つ目は「望ましい栄養・食生活の推進」である。ライフステージに応じた食の知識と選択する力を習得し、望ましい食生活を実践できるよう取り組む。主な取組は表に記載したとおり。

2つ目は「食を通じて地域とつながるための支援」である。家族や友人等と一緒に食卓を

困む利点を伝えていく。また、町田産農作物の購入・食べる機会を増やす。主な取組は表のとおり。

3つ目は「食に関する環境の整備」である。家庭や学校、職場等において、望ましい栄養・食生活を実践しやすい環境を整える。本施策は、民間企業や給食施設、町田市食育ボランティア等の地域資源を活用して取り組む。主な取組は表のとおり。

**委員長：**

事務局から「(仮称) まちだ健康づくり推進プラン24-31」の素案について説明があった。各施策の主な取組には、委員の団体名も記載されている。記載があるもの、また記載は無いが取り組んでいるものについて、ご意見いただきたい。

**委員：**

説明があったとおり、「大学」と記載がある取組は、本大学も取り組むということによるか。

**事務局：**

はい。ぜひ、連携をお願いしたい。

**委員：**

はい。

**委員：**

高齢者支援課が実施する「高齢者の介護予防事業」の講師依頼は、町田地域活動栄養士会としてではなく、個人で受けている。NPO 法人でないことが影響している。そのため、連携団体には入らない。

消費生活センターが実施する市民対象の栄養教室やイベントへの出展、市立総合体育館が実施するイベント「チャレンジマッスル」にも出展している。生涯学習センターからは、「高齢者の食事について」依頼を受けて「町田市老人クラブ連合会」で講話を行った。男性料理教室実施後には、自主グループが3つできた。しかし、新型コロナウイルス感染症流行後は、関わっていない。

**事務局：**

関係各課に確認する。

**委員：**

「学校給食を活用した食育」については、中学校においても、2024年度からセンター給食が順次始まるため、進んでいくと考える。

**委員：**

「町田市食育ボランティアによる活動」は自園では依頼したことが無い。保育園協会に属する他園では依頼している。園における食育推進の助けになっている。

**委員：**

「まち☆ベジ市、町田市農業祭、キラリ☆まちだ祭」は関わっている部分もあるため、連携団体に町田市観光コンベンション協会として問題ない。

**委員：**

「学校給食を活用した食育の推進」は、小学校では毎月19日の食育の日に地産地消等に取り組んでいる。

**委員：**

「民間企業や給食施設と連携した、食に関する啓発活動」は、保健所と企業と連携して、レシピブックを発行した。忙しい朝にも用意しやすい時短レシピを紹介した。

**委員：**

「民間企業や給食施設と連携した、食に関する啓発活動」は、「町田・健康と食を考えるつどい」の開催等で、企業と連携し、高齢者向けの食事について普及啓発を行った。

**委員：**

「食物アレルギーに関する環境整備」だが本大学は取り組んでいないため、連携団体には入らない。

**委員：**

「食物アレルギーに関する環境整備」は、町田集団給食研究会としては取り組んでいない。個々の給食施設は対応している。

**委員：**

「食物アレルギーに関する環境整備」は、小学校の給食対応として、保護者との面談や、職員向けの食物アレルギー研修とエピペンの使い方の研修を行っている。

**委員：**

食物アレルギーについて、歯科医師会で取り組んでいるものは無いが、診療の際、必要に応じて個別に対応している。

**委員：**

町田食品衛生協会としてではないが、本校は食物アレルギーの生徒が増えたように感じる。調理実習等の授業で配慮が必要となっている。

## (2) 2022年度の食育の取組報告および2023年度以降の取組について

### 委員長：

まずは、事務局から説明を願いたい。

### 事務局：

2022年度町田市食育推進計画進捗管理シートの作成にご協力いただき、感謝申し上げます。本シートは第2次町田市食育推進計画の進捗状況を把握するために毎年度作成している。本議事では、2022年度の食育を振り返りつつ、今後どのような食育に取り組むべきかお話しいただきたい。

資料4-1に進捗管理シートの見方をまとめた。3種類のシートから成る進捗管理シートの概要は、本資料をご覧ください。

資料4-2に進捗管理シートへ記載いただいた取組の件数をまとめた。視点5つの中では、視点2「食の安全」、視点5「食環境」における取組件数が少ない結果となった。

対象者別の取組数では、高校生・大学生を対象としたものが、その他世代と比べて少ない結果となった。

視点別にいくつか取り組みを紹介する。

視点1だが、市内小・中学校において朝食レシピコンテストを行った。その受賞作品を市庁舎食堂、小・中学校の給食で提供した。提供された受賞作品は、「まち☆ベジオムレツ」、「もちもちチーズ味噌」、「さっぱり！夏野菜たっぷりちらし寿司」。

視点2においては、一般市民を対象にアレルギー教室を行った。国立病院機構相模原病院のアレルギー専門医を講師に招き、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎について講話いただいた。

その他、食品表示適正化のため、スーパー等の小売店へ指導を行った。

視点3においては、食育講演会を実施した。感染症が流行してからは、YouTubeを活用した動画配信の形式で開催している。2022年度は、市内の農家料理店の店主を講師に招き、野菜レシピをご紹介いただいた。動画は現在も公開中。

2023年度は、11月に開催予定。

視点4においては、町田市民大学HATSの講座として、米作りを行った。6月には田植え、10月には稲刈りを行った。

視点5においては、市内デジタルサイネージを活用した普及啓発に取り組んだ。市内を走るバスの車内や町田駅前の商業ビル等で動画を放映した。

また、食品メーカーと連携して、レシピブックを発行した。2023年度のレシピブックにおいては、東京家政学院大学にご協力いただいた。

市内飲食店等においては、小盛の設定や持ち帰り対応などの食品ロス削減に取り組む店舗を「まちだ☆おいしい食べきり協力店」として認定している。2022年度は、認定店舗数が9店舗から11店舗に増加した。

資料4-3には、第2次町田市食育推進計画における評価指標の達成状況をまとめた。本内容は、昨年度の第2回委員会においてご覧いただいたところ。

その際には年度途中につき、視点4「小学校給食における地場野菜使用量」の達成状況を報告できなかった。2022年度は14.1%となり、目標値の15%に近づいた。小学校給食では、町田産農作物の加工品の製造にも力を入れており、白菜キムチやゆずはちみつゼリーを製造している。

資料4-4は、2022年度に市内で行われた食育の一覧である。

この後、各委員に2022年度の取組報告と2023年度の取組予定について、ご発言いただきたい。

本日ご欠席の市内農業者、佐藤委員から2023年度の取組について伺っている。

「7月から原町田の子ども食堂へ野菜の提供を始めた。月に1度、売り物にはできないが食べられる野菜を子ども食堂へ届けている。子ども食堂のメニューに合わせて、今後野菜の種類や量を調整していく。」とのことだった。

#### **委員長：**

各委員に2022年度の取組報告と2023年度以降の取組について、ご発言いただきたい。

#### **委員：**

2022年度も変わらずコロナ禍にあったが、形を変えて食育に取り組んだ。野菜やじゃがいも、さつまいもを作って、園児と食べた。野菜嫌いの園児が多いが、自分たちが育てた野菜は食べてくれる。

米作りも行った。脱穀等も行ったが、すごく大変な作業だった。できたお米は飯ごうで炊いて食べた。

さんまを炭で焼いて食べた。5歳児を対象に実施したが、きれいに骨だけ残して、一匹丸ごと上手に食べる子がいた。年齢の小さな子は、フルーチェ作りやとうもろこしの皮むきを行った。

自分で育てたり、調理したり、何か関わることで子どもからの見え方が違うと感じる。経験はとても大切だと思うので、できるだけ体験の機会をつくっていきたい。

横断的な取組としては、田植えをJA町田市と連携してできないかと考えている。

**委員：**

朝食レシピコンテストを実施した。先ほど紹介のあった市庁舎食堂での提供の際は、私も食べに行った。しかし、売り切れで食べることができなかった。その後、学校の給食で食べることができた。小学6年生の児童からの感想では、「自分で食事を用意する前には、食事は用意してもらえて当たり前と思っていた。レシピコンテストをきっかけに自分で用意して、毎日作ってもらっているのが当たり前ではないのだと受け止めた。」とあった。

「作るのが下手でも、一生懸命作ったものを『おいしいね』って言ってもらった時は本当に嬉しかった。」などがあった。

児童からすると、家族の一員としての役割を持つことができたコンテストであったと思う。2023年度から「ベジチェック」という機械を使用して、野菜摂取量増加に向けた取り組みを始めた。市内4校が先行して行っている。皮膚のカロテノイドを測定する機械だが、クラス30名ほどを測ると、1,2名しか目標に届かなかった。測定を行う学校は今後12校に増やしていくので、市全体の野菜摂取量増加につながると良いと考えている。

野菜栽培も行っている。育てた野菜を子ども食堂等におすそ分けすることもある。子どもは地域の方に喜んでいただけた、という誇りになっている。

給食だよりやホームページ等に人気の給食レシピを掲載して、保護者への野菜摂取増加に向けた取組も行っている。子どもたちだけでなく、保護者にもきちんと食べる意識を持ってもらいたい。生の野菜だけではなく、加工された野菜も含めて野菜摂取量増加につながると良いと感じた。

**委員：**

2022年度は、大学が主催している子ども体験塾の中で、料理教室を実施した。その際、もう少し町田産農作物を使用したかった。

保健所が発行する「みんなの健康だより」に、大学生が考えたレシピを掲載した。本大学の畑でとれた野菜を使ったレシピにした。

2023年度は、小学生を対象に、年6回料理教室を開催している。既に3回は終了した。残り3回、町田産野菜を使って行いたい。アンケートをとったところ、朝食を欠食していた家庭で「朝食を摂取するようになった」等の回答があった。

民間企業、保健所と連携して、時間がない朝にも簡単に1分間で作ることができるレシピブックを発行した。レシピ紹介により、朝食喫食率の向上を狙った。レシピを考えた学生自身も朝食欠食率が高いため、朝食について考える良い機会になった。

**委員：**

新型コロナウイルス感染症の流行前は、小学生の親子対象に料理教室を行っていた。

調理師を目指す本校の学生も野菜嫌い等の偏食傾向や、朝食欠食がみられる。若い世代への食育の必要性を感じる。

食育インストラクターを取得できるカリキュラムには、約4割の生徒が希望し取得している。もう少し割合を上げていきたい。

授業の約半分は調理実習なので、町田産農作物を積極的に使用したい。また、家族等のお客さんと呼ぶレストラン実習を再開したい。

**委員：**

野菜摂取量増加に向けた取り組みとしては、保健所が作成した野菜料理レシピ集を患者等に配布している。

食中毒予防に向けた取組数が少ないと先ほど話にあった。町田集団給食研究会で取り組んでいきたい。当院で、保健所が発行する「食べものミミより情報」を患者に配布、職員食堂に掲示したところ、反響があった。「食べものミミより情報」を活用していきたい。

**委員：**

2022年度は「暮らしフェア」や「チャレンジマッスル」において、昼食に1品で栄養バランスをとれる料理のレシピを紹介した。「女性の健康週間イベント」においては、女性のやせに対する食事について普及啓発した。

2023年度も「暮らしフェア」に参加した。災害時における3日間分の献立を紹介した。家庭で備蓄できている人は少なく、さらに普及啓発に取り組まなければならないと感じた。イベントでは日本栄養士会が取り組む「栄養ワンダー」と絡めて、キウイや牛乳の配布も行った。

横断的な取組について、「暮らしフェア」の出展内容を見た防災課から連携したいと声がかかった。8月に行われる防災フェアに出展する予定。

**委員：**

町田市観光コンベンション協会は「市の魅力をアピールする」経済の視点が強い。町田市民だけでなく、市外の方を呼び込む目的の取組が多い。

四季折々の町田産農作物を使用した「里山弁当」を販売した。春に実施する「さくらまつり」では、約100名のスタッフに弁当として食べてもらった。

「まちだシルクメロン」をJRA町田特別賞に取り入れてもらった。その際、市の名産品PRのため、まちだ名産品の販売も行う。

7月には「町田シバヒロマルシェ」の第一弾を開催した。JAにご協力いただき、町田産農作物の販売も行った。

**委員：**

6月に、小学3年生の子どもが「学校ですごいおもしろいことがあった」と話してくれた。よくよく話を聞くと、「初めて給食を班になって食べたのが楽しかった」ということだった。私の子どもは、コロナ禍の中で育ってきた。その話を聞いて、共食の大切さを改めて感じた。

調理実習は小学校高学年にて行われるはずだが、コロナ禍で行われてこなかった。子どもたちの調理技術は落ちているように感じる。大人たちが伝えていく必要がある。

市民の野菜摂取量が低下している結果には、少しショックを受けた。自分の家庭では、野菜をしっかり取り入れているつもりだった。摂取量が低下した要因を考えてみたが、やはり共働き世代が増えたことが影響しているように思う。食事を用意する時間が限られている中で、スーパー等で惣菜や冷凍食品を買うことに抵抗がなく、利用している。アグリハウスは利用したいが、働いている世代は平日利用できない。仕事が終わると閉店している。

また、休日に行く目当ての野菜が無いこともある。「本日の野菜」の種類をSNS等で発信してもらえると、利用しやすい。

家庭で調理する時の野菜の下処理は面倒。どのように売られていると家庭に取り込みやすいか。販売している包装容器ごと野菜を加熱できる素材ならば嬉しい。また、「カレーセット」のように料理ごとに下処理されたセット販売があると良い。

**委員：**

中学校では、調理実習ができていない。野菜摂取量低下への課題については、教育現場における調理実習などの機会が重要である。

**委員長：**

事務局からの説明にもあったとおり、「(仮称)まちだ健康づくり推進プラン 24-31」においては、食育関係団体の枠組みにとられない横断的な取り組みが求められている。そのような取組について、ご意見があれば発言をお願いしたい。

**一同：**

特になし。

**委員長：**

以上で議事を終了する。

**6 事務連絡**

**7 閉会**

以上